



学習課題を捉え、問題を解決することができる授業の工夫・改善



名古屋市立福春小学校 校長 松本 仁志

〒455-0873 名古屋市港区春田野一丁目 2901 番地

TEL : 052-301-2911 FAX : 052-301-2780

URL: <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/fukuharu-e/>

■ 事業のねらい

本校は、自ら学習課題を捉え、仲間との対話を通して主体的に問題を解決することができる児童の育成を目指しています。令和元年度より「なかまなビジョン」の学習の流れを積極的に取り入れた実践を進めてきましたが、本年度は「めあてをつかむ」「理解を深める」「振り返る」の3場面の指導の工夫に焦点を当てて授業改善を進めることをねらいとしました。

■ 事業の内容

P D C A サイクルに基づいた組織的な授業改善

「めあてをつかむ」「理解を深める」「振り返る」のそれぞれに特化して指導の工夫を進めようと三つの部会を編成し、各部会で以下のような流れで授業改善を進めました。

P 授業計画の立案

- ・実態把握を基に指導計画を立てる。

D 授業実践①

- ・各学年の1学級で授業案に基づいた授業実践を行う。

C 授業実践①の反省と改善案の検討

- ・課題を基に改善内容や方法について話し合う。

A 授業実践②

- ・改善案に基づいて同学年の他学級で授業実践を行う。

ホワイトボードの活用

対話により自らの考えを深めたり、本時の学習を振り返ったりする場面で「互いの意見の認め合い」「学びのプロセスの構築」「学びの可視化」の三つの効果を期待してホワイトボードを活用しました。

タイマーの利用

自力解決に取り組む時間や話し合いの時間をあらかじめ示し、時間の経過や残りの時間を確認し、見通しをもって学習できるように、タイマーを活用しました。



実践例1 めあてをつかむ場面

4年生「2けたでわるわり算の筆算」

「80円を持って1本30円のあめを買おうと、何本買えていくら余りますか」という課題に対し、実践①では、「 $80 \div 30$ 」の計算をする際に「 $8 \div 3 = 2$ 余り2」と立式したところ、この式から余りが20円になることを捉えられない児童がいました。そこで、実践②では、「 $8 \div 3 = 2$ 余り2」の「余り2」の意味について考えさせるように授業展開を修正し「 $8 \div 3 = 2$ 余り2だから、余りは2円になるね」と教師が意図的に間違いを示しました。児童は、10円玉のモデルをホワイトボードに置いて「余り2」の「2」は10円玉の数を表していることを、話し合い活動を通して見出すことができました。



【ホワイトボードで説明する児童】

実践例2 理解を深める場面 5年生「台形の面積」

前時までに学習した三角形の面積・平行四辺形の面積の求め方を利用して、台形の面積の求め方を考えるという課題に取り組みました。同じ大きさ・形の台形の用紙を何枚使って考えてもよいことを伝え、各自が自分の考えた方法で台形の面積の求め方を考えました。互いが考えた方法をグループで伝え合った後に、それぞれが考えた方法について「**は**やく・**か**んたんに・**せ**いかくに」という視点で話し合いました。ホワイトボード上で台形を移動させたり回転させたりして各自が考えた方法を視覚的に分かりやすく示すことで、互いの考えを理解し、その後の話し合いが活発に行われました。



【ホワイトボードを使った話し合い】

実践例3 振り返る場面 6年生「変わり方」

反比例の変わり方について「変わり方のきまりを見つけよう」と、グループで話し合いました。

その後、各グループで話し合った内容についてホワイトボードを用いて発表し合い、全体で考えを共有しました。授業の終末で他のグループと自分たちの考えを比較して、自分の考えの良かった点や足りなかった点などを「レビュー」にまとめ、本時の学習を振り返りました。



【ホワイトボードを書く様子】



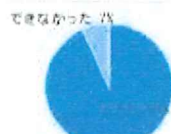
【発表をする児童】

■ 事業の成果

事業終了後の児童・教職員アンケートの結果、以下のような回答が得られました。

児童（6年生）

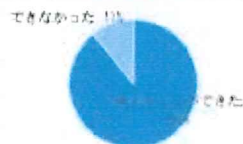
友達と話し合ったり、考えを発表し合ったりすることで、自分の考えを見直すことができた。



ホワイトボードを使うと自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりするのに分かりやすかった。

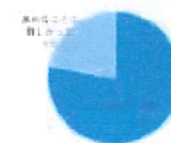


タイマーがあると残りの時間が分かり、時間をうまく使って考えることができた。



教員

P D C Aサイクルに基づいた授業の見直しを通して、効率的に授業改善を進めることができた。



■ 事業のまとめ

「めあてをつかむ」「理解を深める」「振り返る」の3場面に焦点化して指導の工夫を行ったことで、組織的・合理的に授業改善を図ることができました。

また、3場面は、それぞれが独立しているものではないことから、事業を通して「なかまなビジョン」の学習過程を定着させることができました。

今後も、本事業の成果と課題を基に、児童が自ら学習課題をつかみ、主体的に課題の探究に取り組み、問題を解決することができるような授業づくりを目指して、さらなる授業改善に取り組んでいきます。